

10	〔大笹村・田代村絵図〕 絵図部分縦 142.9 cm × 横 78.7 cm	貞享元 (1684)年カ	大笹区有文書	P2002	No.1
----	---	-----------------	--------	-------	------

これは吾妻郡大笹村（現・嬭恋村大笹）と、当時大笹村の枝村であった田代村を描いた絵図です（画像A）。天明3（1783）年の浅間山大噴火より前の浅間山北麓の様子や、森林構造が読み取れる史料としても注目されています。

本絵図の特徴の1つとして、大笹関所の詳しい描写が挙げられます。江戸時代の関所はいわゆる「入り鉄砲に出女」を取り締まり、江戸の治安維持を担いました。本絵図では門の脇に描かれた、曲屋（まがりや）茅葺き、白壁の建物が存在感を示しています。また、敷地は柵で厳重に囲まれていました（画像B）。

関所の北を流れる鹿の籠川（ししのろうがわ）には、刎橋（はねばし）が架かっていたこともわかります。刎橋は、橋脚を建てるのが難しい深い谷川に用いられました。

大笹村は、信州仁礼（現・長野県須坂市）と高崎を結ぶ信州街道（北国街道の脇往還）が通り、大戸（現・東吾妻町）を経て高崎へ向かう大戸通りと、沓掛（現・長野県軽井沢町）へ向かう大笹通りの分岐点にあり、宿場として栄えました。本絵図でも関所へ通じる道の両側に民家が建ち並んでいます。

絵図全体を東西に横切る薄い青灰色の線は、上信国境の鳥居峠に発する吾妻川や、その支流です。周囲には上信国境である浅間山・三尾山（黒斑山）・水ノ塔山・箆ノ登山・地蔵峠（湯ノ丸山登山口）・四阿山（あづまやさん）など、現在ハイキングや登山でも人気の山々などが大きく描かれています（画像C）。

☆参考文献

能登建・大川明子ほか「『大笹村・田代村絵図』のトレース図作成と絵図の解析について」（技研コンサル株式会社文化財研究所、2019年度）

A



B



C

